◎エピクテトス（Epictetus）［西暦55 – 136年頃］の言葉　　　　　　　　　　　　　５月４日

　『人生談義』（岩波文庫、上下の２冊。鹿野治助訳）［絶版で入手しづらい］

　『エピクテトス 語録 要録』（中公クラシックス、鹿野治助訳）［抄訳］

　数点の邦訳、英訳を参考にして、佐々木奘堂が試訳した。［］内は、佐々木の説明・補足等。

●１巻６章：

君たちはみんな、「**フィディアスの作品［金と象牙でできた巨大なゼウス像］を見ないで死ぬとしたら、なんて災難（άτύχημα）だ**」と言って、それを見るためにオリンピアまで旅をする。

だが、**ゼウスが現にここにいて、しかも諸作品にあらわれているのならば、わざわざ旅をする必要がないのではないか？**

君たちは、ゼウスのこれらの作品を、見たり理解したりしたいと思わないのか？［**君たち自身が、ゼウスの作品なんだよ。**］　君たちは、自分が何者であるか、何のために生まれてきたのか、何のために見る力が備わっているのか、これらを知りたいとは思わないのか？

「**でも人生には、不快なことや、困難なことが起こります。**」

それでは、［不快なことや困難は］オリンピアでは起こらないのかい？　汗だくにならないか？　雑踏で狭苦しい思いをしないか？　入浴の際に不快な思いをしないか？　雨に降られてずぶ濡れになることはないか？　喧噪や騒動や、その他にもイヤになることはないか？

だが、私が思うに、「これほど素晴らしいものを見ることができるのだったら」と、それらの不快なことをすべてしんぼうするのではないか？

そうだ、**どのようなことが起ころうとも、それを受け入れ、耐える力を君たちは授かっているではないか。大いなる心（μεγαλοψυχία）、勇気（άνδρεία）、忍耐力（καρτερια）を授かっているではないか**。

もし私が**大いなる心を授かっているのならば、いかなることが起ころうとも、それに煩わされるだろうか？　何が私を混乱させたり、不安にさせたりするだろうか？**　あるいは何が苦痛になるだろうか？

私は授かった能力を、目的に適うように**使用しないままでいながら**、起こる出来事に対して、悲しんだり嘆いたりしていてよいのだろうか？

「**ですが、鼻水が垂れてきたりします。**」

君の手は何のためにあるのだ？　手で洟（はな）をかめるではないか。

「すると、この世で鼻水が垂れるということは、道理に適ったことなのですか？」

**そのようにぶつぶつ［不平や理屈を］言っているよりも、洟が出たなら、すぐに洟をかんだらよいではないか**。

もしヘラクレス［ギリシャ神話での英雄］が、ライオンやヒュドラ［ギリシャ神話に登場する怪物］、牡鹿、猪、それから非道で邪悪な人間たちがおらず、それを退治し、打ち払うことがなかったとしたら、果たしてどれだけのものになっていただろう。これらの困難が何もなかったとしたら、彼はどうしただろうか。毛布にくるまって眠っていただろうか。

もし贅沢で安逸に一生を眠るように過ごしていたのだったら、そもそもヘラクレスになっていなかっただろうし、たとえヘラクレスになったとしても何の役にも立たなかっただろう。

あのような困難な環境が、彼を揺り動かし彼を鍛えたのでなかったなら、彼の腕力も、元気も、忍耐も、気高さも、何の役にも立たなかっただろう。［ヘラクレスは、困難や苦境の真っただ中で、必死に戦い、乗り越える努力をし続けることで、ヘラクレスたりえたのだ。君たちも同じではないか。］（中略）

君たちもこれらのことに気づいたのなら、君自身のもっている能力に目を向け、［どのような力があるのか］よく見てみたらよい。そして次のように言うがよい。

「おお**ゼウスよ。あなたの欲するままに、試練をお与えください。なぜなら私は、あなたから授かった素質もありますし、起こる出来事の中で、それに打ち勝っていく能力もあるからです。**」

**ところが君たちは、そうはしないで、何か悪いことが起こりはしないかと恐れて震えたり、あるいは起こった出来事を嘆いたり悲しんだりうめいたりして坐っている。さらには神を非難さえしている**。卑しい心のせいでこのような結果になっていることが、まさに「**不敬虔**」そのものではないか。

だが神は、どのようなことが起こっても、それに打ち負かされダメになってしまうのでなく、すべてを耐えて乗り越えていく力を私たちに授けてくださったのだ。それだけでなく神は、名君や慈悲深い父親のように、それらを支障も強制も妨げもなしに、私たちの権内のもの［私たちが自分で行使できる力］として与えてくださり、何の保留もしなかったのだ。

これらを**自由に使える力を受けているにもかかわらず、君たちはそれを使用しない**。何を授かったか、誰から授かったかさえ気づかないまま、その力が見えないままでいて、**恩恵を与えられていることさえ知らずにいる。心が卑しいために、神に対して、不平や非難を向けたりしている**。

ともかく、君たちが、大いなる心と勇気に関して、素質と能力を授かっていることを私は君たちに示そう。不平や批判に関しての素質を授かっていると、君たちがもし言うのだったら、それを示してくれたまえ。

●２巻８章：

　君は素晴らしいものであり、神の一部だ。君の中に神の一部分をもっているのだ。

　君はなぜ君の血統が尊い［神の子孫である］ことを忘れているのか。自分が由来している根源を知らないのか［君の根源は神なのだ］。

　君は、食べる時、食べているのが誰であるのか、誰を養っているのかを知らないでいるのか。君が人々と交際したり、運動したりしている時、君は神を養い、神を修練していると気づかないのか。

　不幸な者よ、**君は常に神と共にありながら、それを知らないでいるのだ**。

　**金や銀でできている外側にある神のことを私が話していると思っているのか？　そうではない、君は君自身の内に神をもっている、そして不潔な考えや汚れた行ないによって、神に侮辱を与えていることを知らないでいるのだ**。

　神の像が目の前にある時ですら、君は、普段行っているような行為を慎むであろう。だが、神は、君自身の内部に現に存在していて、［君の行なう］すべてを見たり聞いたりしているというのに、君はそのような考えや行動を恥ずかしいと思わないでいる。ああ、**自分の本性を知らず**、神の怒りを被る者よ。

　若者が学校を卒業し、実社会へ出る時、彼が何か間違ったことをしでかさないか、不節制な食事をしないだろうか、女性関係を過ちを犯さないだろうか、ボロの服を着て卑屈になりはしないだろうか、着飾った服を着て高慢になりはしないだろうかなどと、いろいろ心配するのはなぜだろうか？　このようなことに陥る若者は、神［をもっていること］を知らず、誰と共に世を渡っているかを知らないのである。

　だが、その若者が、「私はあなた［神］と共にありたいのです」と言ったとしたら、それを聞くに堪えられようか。

君は神をもっているではないか？　**神を自分の内にもちながら、外に探し求めようとするのか？**　あるいは神が何か他のことを告げようとしているというのか。

　もしも君が、**フィディアスの作った彫刻――アテナ、あるいはゼウス――であるならば**、君は自分自身と自身を作った製作者との両方を心に留めるであろう。君が意識（認識力）をもっているのならば、君を作った製作者や君自身を辱めるようなことをしないように努めるであろうし、ふさわしくない姿で人前に現れないよう努めるであろう。

　だが、**現にゼウスが君を作ったというのに**、君はどのような姿であるかということを少しも気にかけないのか？

　君を作った作者［神］は、彫刻の作者と同じなのだろうか。神が作ったもの（君自身）と、彫刻家が作ったもの［彫刻作品］は同じなのだろうか。［この間には雲泥の差があるのではないか？］　例えばどのような製作物が、その制作を通して発揮された力を、その作物の中に有しているであろうか？　それは単に大理石、青銅、金、象牙に過ぎないのではないか？

　フィディアスの作ったアテナ像は、ひとたびその手をのばして、その上に勝利の女神ニケを載せたら、**永久にその同じ姿のまま立っているだけではないか**。

　だが、**神の作品［君自身］は、動くことができる。命の息をしている。そして心を用いてはたらき、それを判断吟味することもできる**。

　**君は、この製作者の作品であるというのに、君はこの作者（神）を侮辱するのか？**

　さらに神は君を作っただけでなく、**ただ君自身を信頼して、君自身を託したのだ。君はそれを忘れて、この信頼を侮辱するのか？**　もし神が君に孤児を託したとするならば、君はそれをおろそかにするだろうか？

　**神は君に君自身を託し、次のように告げているのだ。「君以上に信頼して任せられる人は他にいない。**（ούκ εΐχον άλλον πιστότερόν σου）どうかこの人（君自身）を自然が与えた本来具足のものを発揮するよう、謙虚で、誠実で、気高く、ゆるがず、情念にながされず、平静であるように保ってくれたまえ」と。**それなのに君は自分でこれに背いている**。

●**第二巻 十九章 「真の信念と借りたる信念とに就いて」**

　主要議論は次の如き諸命題から出発するように思われる。それは

（一） 過去の事柄はいずれも必然的に真である。…

そこで**今誰かが、『これらの命題のうち、いずれをおんみは採るか？』と私に訊ねるなら、私はこう答えるであろう。『私は知らない**。しかしダイオドラスは、そのうちの或ものを主張すると聞いた。私はまた、パンゾイデスやクリアンジーズの弟子たちが、それとは別な命題を採り、クリシパスの門下はまたそれらとは異なつた命題を主張すると考える』と。

（そうするとその人は更に訊ねるであろう？）『**おんみ自らの考えは』。わたしは答えて曰う。 『否、私自身の思想を試験し、諸々の議論を比較し、評価し、またこの事柄について自説を作るのは、私のなすべき事ではない。』**

　然し**若し私が虚栄ずきな人間であるなら、特に宴会などでは、この事について述作した人々の説を列挙して、並居る人々をおどろかすであろう**。…**「おんみはまだ此を読まないのか？　読まなければ読んで見よ！」**

然しこれを**読んだところで、その人にどんな益があろうか？　彼は今よりもより饒舌な人となり、より厄介なものとなるだけであろう**。

何となれば、**おんみ自身それを読んで、他にどんな益があつたか**。**この事柄についておんみは独りで、どんな意見を樹立したか？［そうしようとすることがそもそも不可能だし不要ではないか］**

　おんみは**何が故に、他人の光栄でもって自らを飾るか？**　何が故におんみは自らをストア学徒と云うのであるか？

おんみたちは自らの為しつつある事について、自らを注意して見るならば、おんみ達は自らが孰（いず）れの学派に属するかが分るであろう。**おんみ達の最も多くはエピキュラス派**のもので（エピキュラスは西暦前340-270年の人で、所謂快楽論者である――訳者註）、僅少のものがペリパテティック派（アリストートルの学派）に属して居り、然もこれらの人々すら、可なり緊張せざるものであることを見出すであろう。

何となれば、おんみたちが徳を以て他のあらゆるものに匹敵し、或は実際それ以上の価値あるものだと考える証拠がどこにあるか？　**若しおんみたちのうちにストア学徒があるなら、示して呉れ。どこに、而して如何にしておんみたちはそれを持ち得るか？　しかしストア派の文句を繰り返えすだけの人ならば、おんみたちはそのいくたりかを示すことが出来る。彼等はまたエピキュラスの学説をも同じように良く繰返えすことが出来ないか？**　そしてまたペリパテティックの学説においても、同様に正確に述べないであろうか。そこで**真のストア派の学徒とは、一体誰であるか？**

　われらが、**フィヂィアスの芸術に則って制作された彫像をフィヂィアス派と云うように、自分自身の唱導せる学説に則って作り出された人を、私に見せて呉れ！　病でも幸いであり、危難に臨んでも幸であり、死に瀕しても、追放されても、悪評を受けても幸であるような人を、私に見せて呉れ！**　かかる人を私に示してもらいたい！　本当に！　私はストア学徒に会いたいのである！

しかしそれは、おんみたちのなし得るところではない！　**然らば何が故におんみたちは、自らを嘲**（あざけ）**り、他人を欺こうとするのか？　何故におんみらは、他人の衣をつけて、かの浴場から衣服を窃取する泥棒のように、決しておんみの所有ならざる名称や事物を携えて、歩き廻わるのであるか？**

而して今私はおんみたちの教師であり、おんみたちは私の教を受けて居る。私はおんみらが妨げられ・強いられ・煩わされることなく、自由に・繁栄に、幸編に・そして一切の大小事項に於て神のみを顧みるように、おんみたちを作り上げると云う目的を持って居る。おんみらはこれらの事を学び、またそれを行うべくここに居るのである。

　而しておんみらは自己に適当する目的を有し、私はまたこの目的の外に、私に適当する能力を持って居るとすれば、**何故におんみらは、その仕事を完成しないのか？　この場合、欠如せるものは何であるか？**　私が大工とその側に横われる材木とを見るときは、私は或制作を待ち設ける。然るに今ここには大工あり、ここに木材がある。**それで今何が欠如して居るか？**

　かかる事は教えられ得ないものであるか？　**いや教えられ得るものである**。しからばそれはわれらの力の及ばざるところのものであるか？　**否、世間の万事のうちで、これだけがわれらの力の左右し得べきものである**。ただ表象の正常な使用だけを除いては、財産も、健康も、名声も、又は他の何物も、われらの力の左右し得るものではない。表象の正しい使用のみは、その性質上、他の妨げ得るものではない。これのみは煩わされるものである。然らば何が故に、おんみたちは完成の域に入らないのか。この理由を私に告げよ！　…　しかし事柄それ自身は、成し遂げられ得るものであって、実にわれらの力の支配し得る唯一のものである。…

　しからばおんみ等は、どうしようと欲するか？　結局われらは、われらの間にかかる目的を抱くべく始めようではないか。而して過去たらしめよ。ただわれらは始めよう。私を信頼せよ。さすればおんみたちは（結果が）解るであろう。

◎参考（ネットからとったエピクテトス名言集）

・[『逆境は、人の真価を証明する、絶好の機会だ。』](https://www.a-inquiry.com/ijin1067/)

・[『侮辱は相手のせいではなく、侮辱されたと思い込むせいだ。』](https://www.a-inquiry.com/ijin1065/)

**・『**[人を不安にするのは、物事ではない。物事についての意見だ。』](https://www.a-inquiry.com/ijin1066/)

**・『**[あなたを罵倒したり、殴ったりする人間が、あなたを虐待するのではない。それを恥辱だと考えるあなたの考えが、あなたを虐待するのだとよく考えなさい。』](https://www.a-inquiry.com/ijin1079/)

・[『あなたのことを人が悪く言う。それが、真実なら、直せば良い。それが、虚偽ならば、笑えば良い。』](https://www.a-inquiry.com/ijin1082/)

**・**[『哲学とは、自分の幸福が外からの事柄にできるだけ左右されぬように心がけて、生きることである。』](https://www.a-inquiry.com/ijin1075/)

**・**[『幸福への道はただ一つしかない。それは、意志の力でどうにもならない物事は悩んだりしないことである。』](https://www.a-inquiry.com/ijin1084/)

**・**[『自由な意思は、盗人の手の届かない財宝である。』](https://www.a-inquiry.com/ijin1071/)

**・**[『病気は身体の障害であるが、気にしない限り意志の障害にはならない。』](https://www.a-inquiry.com/ijin1081/)

・[**『与えられたるものを受けよ。与えられたるものを活かせ。』**](https://www.a-inquiry.com/ijin1063/)

・[『自分が不幸なとき、他の人たちを非難するのは無教養者、自分自身を非難するのは教養の初心者、そして他人をも自分をも非難しないのが本当の教養人である。』](https://www.a-inquiry.com/ijin1064/)

**・**[『容赦は、いかなる復讐にも勝る。』](https://www.a-inquiry.com/ijin1086/)

・[『聞き上手は、ひとつの技能である。』](https://www.a-inquiry.com/ijin1069/)

**・**[『神は人間にひとつの舌と、ふたつの耳を与えた。しゃべることの2倍多く聞けということだ。』](https://www.a-inquiry.com/ijin1083/)

・[『よい作家になりたいなら、書くことだ。』](https://www.a-inquiry.com/ijin1074/)

・[**『我々を救ってくれるもの、それは友人の助けそのものというよりは、友人の助けがあるという確信である。』**](https://www.a-inquiry.com/ijin1073/)

**・**[『金銭、快楽、名誉を愛する者は、人間を愛せない。』](https://www.a-inquiry.com/ijin1088/)

・[『人間の本性には、動物と通い合う肉体と、神々と通い合う理性・英智とが混じり合っている。』](https://www.a-inquiry.com/ijin1076/)

・[『この地上で最も程度が低いものは貪欲・快楽欲・大言壮語。最も高いものは寛容・柔和・慈悲心だ。』](https://www.a-inquiry.com/ijin1077/)

・[『快楽に抵抗する人は賢者。快楽の奴隷になるのは愚者。』](https://www.a-inquiry.com/ijin1087/)

・[『正しき人は、心の状態を最も平静に保つ。不正なる人は、心の状態が極度の混乱に満ちあふれている。』](https://www.a-inquiry.com/ijin1078/)

・[『あなたの敵にどうやって復讐すべきだろうか？できる限り多くの善行を行うよう努力しなさい。』](https://www.a-inquiry.com/ijin1080/)